ThreeBond

安全データシート

発行日 2021-3-23 **改訂日** 2021-3-23 **改定番号** 1

1: 化学品及び会社情報

製品名 ThreeBond 6722

化学品の推奨用途及び使用上の制限
推奨用途 自動車整備用

安全データシート の供給者の詳細
供給者 スリーボンドファインケミカル株式会社
〒252-0146 神奈川県相模原市緑区大山町1-1

緊急連絡電話番号 042-703-7126 (SDSに関するお問い合わせ)
0120-56-1456 (商品の技術に関するお問い合わせ)

2: 危険有害性の要約

GHS - **分類**

急性毒性(経口)	区分に該当しない
急性毒性(経皮)	分類できない
急性毒性(吸入) - ガス	区分に該当しない
急性毒性(吸入) - 蒸気	分類できない
急性毒性(吸入) - 粉塵/ミスト	分類できない
皮膚腐食性／刺激性	区分に該当しない
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 2B
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
授乳に対する又は授乳を介した影響	授乳に対する又は授乳を介した影響はない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分 3
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	分類できない
誤えん有害性	分類できない
水生環境有害性　短期(急性)	区分 3
水生環境有害性　長期(慢性)	区分 3
オゾン層への有害性	分類できない

GHS**ラベル要素**



注意喚起語 警告
危険有害性情報
H320 - 眼刺激
H335 - 呼吸器への刺激のおそれ
H412 - 長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き
安全対策
取扱い後は顔、手、露出した皮膚をよく洗うこと。
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。

屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
環境への放出を避けること。

応急措置

眼に入った場合: 水で数分間注意深く 洗うこと。次にコンタクトレンズを着用して いて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く 場合: 医師の診察/手当てを受けること。
吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸し やすい姿勢で休息させること。
気分が悪いときは医師に連絡すること。
保管
換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
施錠して保管すること。
廃棄
内容物／容器は都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

他の危険有害性

利用可能な情報はない。

3: 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物

化学品の名称	CAS番号	濃度又は濃度範囲(%)	化審法番号	安衛法番号
水	7732-18-5	90-<99	-	-
フタル酸ジエチル	84-66-2	<0.1	(3)-1301	(3)-1301
硫酸亜鉛、キレート 系消臭剤、カチオン系抗菌剤	-	1-<5	-	-

化学物質排出把握管理促進法(PRTR)
該当しない

労働安全衛生法
通知対象物質
該当しない

表示対象物質
該当しない

毒物及び劇物取締法
該当しない

化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(化審法)
該当しない

4: 応急措置

一般的なアドバイス 治療を行う 医師にこの安全性データシートを示すこと。

吸入した場合 空気の新鮮な場所に移すこと。 ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診察／手当てを受けること。

皮膚に付着した場合 皮膚を石けん(鹸)と水で洗うこと。

眼に入った場合 直ちに少なくとも15分間まぶた(瞼)の裏側まで多量の水で洗うこと。 洗っている間は眼を大きく広げてたままにすること。 刺激が生じて長引くときは、医師の手当てをうけること。 コンタクトレンズを着用して いて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合 無理に吐かせないこと。 水で口をすすぎ、その後多量の水を飲むこと。 意識のない者には、何も口から与えてはならない。 医師に連絡すること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状 利用可能な情報はない。

医師に対する特別な注意事項 症状に応じて治療すること。

5: 火災時の措置

適切な消火剤 現地の状況及び周囲環境に適した消火方法を用いること。

使ってはならない消火剤 高圧水で漏出物を散乱させないこと。

特有の危険有害性 利用可能な情報はない。

引火性特性 容器が熱せられると破裂するおそれ。

特有の消火方法 水噴霧で容器を冷却すること。
大規模火災 警告：消火の効果が得られない場合には水噴霧を使用すること。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置 消火を行う者は自給式呼吸器及び消火活動用の完全装備を着用しなければならない。 個人用保護具を使用すること。

6: 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 十分換気されているか確認すること。 指定された個人保護具を使用すること。 人員を安全な区域に退避させること。 皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。

緊急対応を行う者のための保護具 8項で推奨されている個人用保護具を着用すること。

環境に対する注意事項 環境影響情報の詳細情報については12項を参照のこと。

封じ込め方法 安全に対処できるならば、それ以上の漏えい(洩)又は漏出を防ぐこと。

浄化方法 回収して適切に表示された容器に移すこと。

二次災害の防止策 汚染された物体及び区域を環境規則に従って十分に浄化すること。

その他の情報 7項及び8項に記載されている保護措置を参照すること。

7: 取扱い及び保管上の注意

取扱い

安全取扱注意事項 『８．ばく露防止措置及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

衛生対策 皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。

保管

安全な保管条件 容器を密閉して乾燥した涼しく換気のよい場所に保管すること。

8: ばく露防止及び保護措置

設備対策 シャワー
洗眼場

換気システム。

許容濃度 該当しない。

化学品の名称	日本産業衛生学会	労働安全衛生法 作業環境評価基準 - 管理濃度	ACGIH TLV
フタル酸ジエチル 84-66-2	TWA: 5 mg/m³	-	TWA: 5 mg/m³

生物学的職業性ばく露限界値 該当しない

環境ばく露防止 屋内作業場で使用の場合は、発生源の密閉化または局所排気装置の設置等の対策をする。取扱場所の近くに、安全シャワー，手洗い，洗顔装置を設け、その位置を明瞭に表示することが望ましい。

保護具

呼吸用保護具 【 換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。

手の保護具 適切な保護手袋(ポリエチレン製，ゴム製等の不浸透性素材のもの)を着用すること。

眼、顔面の保護具 薬液飛沫が生じる可能性がある場合には、サイドシールド付きの安全眼鏡を着用すること。 消費者使用には何も要求されない。

皮膚及び身体の保護具 必要に応じて保護前掛け、保護長靴などを使用する。半袖の作業着の使用は避ける。

9: 物理的及び化学的性質

物理的及び化学的性質に関する情報

形状 液体
色 微白濁色
臭い 微臭

特性	**値**	**備考 ・方法**
融点/凝固点	データなし	
沸点、初留点及び沸騰範囲	データなし	
可燃性	データなし	
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	データなし	
燃焼上限:		
燃性下限:		
引火点	引火せず	
自然発火点	データなし	
分解温度	データなし	
pH	5.0	
動粘性率	データなし	
粘度	データなし	
水への溶解度	水に可溶	
溶解度	データなし	
n ーオクタノール／水分配係数(log値)	データなし	
蒸気圧	データなし	
相対ガス密度	データなし	
相対密度	1.0	
粒子特性		
粒径	データなし	
粒径分布	データなし	

10: 安定性及び反応性

安定性 通常の条件下で安定。

危険有害反応可能性 通常の条件では危険有害な反応は起こらない。

避けるべき条件 強熱

混触危険物質 利用可能な情報はない

危険有害な分解生成物 燃焼すると条件によって有害ガスが生成することがある。

11: 有害性情報

急性毒性

毒性の数値尺度 - 製品情報

以下の値はGHS文書の第3.1章に基づいて算出された
ATEmix(経口) 50,400.00 mg/kg

化学品の名称	経口LD50	経皮LD50	吸入 LC50
水	> 90 mL/kg (Rat)	-	-
フタル酸ジエチル	= 8600 mg/kg (Rat)	> 11200 mg/kg (Rat)	> 4.64 mg/L (Rat) 6 h

略語及び頭文字
Rat: ラット

症状 眼の発赤および流涙を引き起こすおそれがある。

製品情報

経口 この化学物質または混合物の特定試験データはない。

吸入 この化学物質または混合物の特定試験データはない。

皮膚接触 この化学物質または混合物の特定試験データはない。

眼接触 この化学物質または混合物の特定試験データはない。 眼刺激。 発赤、掻痒感、及び痛みを引き起こすおそれがある。

皮膚腐食性／刺激性 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。 分類できない。 皮膚刺激のおそれ。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 成分に対して利用可能なデータに基づく分類。 眼を刺激する。

呼吸器感作性又は皮膚感作性 分類できない。

生殖細胞変異原性 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。 分類できない。

発がん性 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。 分類できない。

生殖毒性 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。 分類できない。

特定標的臓器毒性(反復ばく露) 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。 分類できない。

誤えん有害性 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。 分類できない。

12: 環境影響情報

生態毒性 長期継続的影響によって水生生物に毒性。

未知の危険有害性物質の濃度 混合物の 0 %は水生環境に対する危険有害性が未知の成分で構成されている。

化学品の名称	藻類/水生植物	魚類	甲殻類
フタル酸ジエチル	EC50: 2.11 - 4.29mg/L (96h, Pseudokirchneriella subcapitata) EC50: 42 - 255mg/L (72h, Pseudokirchneriella subcapitata) EC50: =21mg/L (96h, Desmodesmus subspicatus) EC50: =23mg/L (72h, Desmodesmus subspicatus)	LC50: =12mg/L (96h, Oncorhynchus mykiss) LC50: =16.7mg/L (96h, Lepomis macrochirus) LC50: =16.8mg/L (96h, Pimephales promelas) LC50: =17mg/L (96h, Pimephales promelas) LC50: =22mg/L (96h, Lepomis macrochirus)	EC50: 36 - 74mg/L (48h, Daphnia magna) EC50: =86mg/L (48h, Daphnia magna) 36 - 74: 48 h Daphnia magna mg/L EC50

残留性・分解性 利用可能な情報はない。

生体蓄積性 利用可能な情報はない。

化学品の名称	分配係数
フタル酸ジエチル 84-66-2	2.35

土壌中の移動性 利用可能な情報はない。

オゾン層への有害性 分類できない。 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。

他の有害影響 利用可能な情報はない。

13: 廃棄上の注意

残余廃棄物 国、都道府県、および市町村の規制に従って廃棄すること。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに依託して処理する。 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することはしてはならない。

汚染容器及び包装 使用済みの容器・ウエス等も、残余廃棄物と同様に処理する。

14: 輸送上の注意

IMDG 該当しない

ADR 該当しない

IATA 該当しない

15: 適用法令

国内規制
化学物質排出把握管理促進法(PRTR)
該当しない
労働安全衛生法
該当しない
通知対象物質
該当しない

毒物及び劇物取締法
該当しない
火薬類取締法
該当しない
高圧ガス保安法
該当しない
消防法:
非危険物
化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(化審法)
該当しない

船舶安全法
詳細については項目14を参照
航空法
詳細については項目14を参照

16: その他の情報

改訂日 2021-3-23

安全データシートで使用されている略語及び頭文字のキーまたは凡例
凡例 8. ばく露防止及び保護措置

TWA	TWA(時間加重平均)	天井値	最大限界値
*	皮膚兆候	+	感作性物質

主要参照文献とデータの出典
JIS Z 7252:2019 GHSに基づく化学品の分類方法。 JIS Z 7253:2019 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (SDS)。
免責事項
このSDSは、JIS Z 7252:2019およびJIS Z 7253:2019の要件に準拠している。この安全データシートに記載されている内容は、発行日時点の知見、情報に基づき正確を期したものです。ここに記載されている情報は当該製品の安全な取扱い、使用、加工処理、保管、運搬、廃棄、漏えい時の処理など指針とすることのみを目的としたものであり、いかなる保証をするものではなく、また品質仕様ではありません。本文中に明記されている場合を除き、他の何らかの材料と組み合わせて使用した場合、または何らかのプロセスに使用した場合には、有効でなくなる場合があります。

[会社情報]

販売者：熊本中央スズキ自動車販売(株)
所在地：熊本県熊本市北区飛田4-6-51
TEL:096-345-4102